

報



日医ニュース「プリズム」欄に関する質問と回答

告

本年4月20日号の日医ニュースに、別記1の記事が掲載されました。

このことについて、当会では日本医師会に対し別記2の質問書を提出し、別記3の回答がありましたので、お知らせいたします。

—情報広報部—

別記1 日医ニュース 第1047号 平成17年4月20日

日医代議員会を顧みて

いささかタイムシフトのして複数の追加・関連発
 ずれた話ではあるが、先言が目立った。しかも、
 の日医定例代議員会にお その発言は、その場の論
 いて、これでも十六万会 議の流れからはずれた、
 員を代表する代議員の発 あらかじめ準備されてい
 言なのかと、失望させら たと思われるものもあ
 れるような場面があった。 り、なかには用意してい
 執行部に対する発言に たヌモを読み上げ
 は、多くの疑問や反論、 る者さえあった。
 批判などがあつて然るべ は、植松治雄会長
 きたが、ただ、その発言 は、「先ほど申
 の論拠が曖昧であつた し上げましたように」と
 り、まったくの認識不足 同じ答弁を繰り返すこと
 や誤認に基づくものであ としたが、空しく実の
 たりして、聴く者にと ないやり取りに、貴重な
 ってば、不可解なもので 時間が無駄に費やされ
 あつた。 た。報道関係者など外部
 今回の代議員会におい からの傍聴者も見守るな
 ては、なぜか、いつにな かで、恥ずかしくみっと
 く、一つの質問項目に対 もないことである。



プリズム

植松会長が、現執行部 また、混合診療全面解
 が今なお新しいブランド 禁を阻止し得たのも、医
 デザインを示していない 師免許更新制度案を抹消
 ことについて、「今の政 させ得たのも、現執行部
 情が定まらないなかで長 の強力かつ効果的なロビ
 期的ビジョンを提示する ー活動があったからこそ
 ことは、実のない単なる に他ならないが、それを
 願望であり、パフォーマ 知ってか知らずか、「現
 ンスでしかない」とする、 執行部はロビー活動をす
 十分に納得のい べきだ」などとする発言
 く説明をしたに もあり、ここでも時間を
 もかかわらず、 無駄にした。
 「基本理念やビ 特に、議事運営委員会
 ジョンが見えてこない」 の取り決めに無視したよ
 「前執行部が示したよう うな質疑に対しては、議
 なブランドデザインを卓 長は議事進行のあり方を
 公表すべきだ」とする 一考すべきであったかも
 発言が相次いだ。ちなみ 知れない。
 に坪井執行部が発足した いずれにしても、日医
 のは平成八年であり、グ 代議員会は、品位ある、
 ランドデザインが公表さ 格式高いものであってほ
 れたのは十二年である。 しい。

(五)

別記2

道医発第404号
平成17年5月24日

日本医師会長
植松治雄様

北海道医師会長
飯塚弘志

日医ニュース掲載記事についての質問

貴職にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、先に発行されました日医ニュースの掲載記事について質問いたします。

日医ニュース4月20日号の「プリズム」欄に、3月27日開催された定例代議員会に関する記事が掲載されておりますが、多くの会員から、「この記事は日本医師会の最高議決機関である代議員会の活発な議論を否定し、日医代議員会を冒涇するものである」、との意見が寄せられております。

つきましては、この度の掲載記事に対する私どもの考えを下記のとおりお示するとともに、併せて貴職のご見解を賜りたく、特段のご配慮をお願いいたします。

記

○日医ニュースのあり方について

1. 当該記事は、都道府県医師会発行の機関紙への代議員会傍聴記または傍聴マスコミの記事であればまだしも、日本医師会の機関紙の掲載記事として不適切である。
2. 日医ニュース編集・発行の最終責任者は日医会長であるが、日医ニュース編集委員会では当該記事についてどのように討議した上で掲載を可としたのか。また発行するにあたって、執行部内でどのような議論をしたうえで掲載を許可したのか。
3. 掲載内容は日医代議員会での発言者（質問、追加、関連）と、議長（議事進行に対する）への批判であるが、都道府県や都市医師会ではなく日医の機関紙がこのような記事を掲載することは、代議員会での活発な議論を否定するもので到底容認されるものではない。
4. 「プリズム」欄は、「視点」と同様に社説に準ずると解するが如何か。日医の会員向け広報活動に関する基本的考えと、日医ニュースの位置づけをどのように考えるか。

○日医ニュース「プリズム」欄の掲載内容について

1. 当該記事中に「発言の論拠が曖昧であったり云々・・・」とある。どの発言を指して言っているのか不明であるが、たとえそのようなことであったとしても、理事者は質問者との活発な議論をもって執行部の方針を周知する努力をすべきである。
2. 「1つの質問事項に複数の追加、関連発言がいつになく多かった」とあるが、多くの発言があり、前もって関連質問を用意していることは、とりまなおさず、多くの代議員が重要な問題と考えている証左である。
3. 「先ほども述べましたように」という答弁が何度かあったとあるが、それは理事者の答弁に納得していないからである。日医としては国民の健康を守る責務から、中・長期的な展望をグランドデザ

インとして示すことは重要である。坪井執行部が平成8年に発足し、グランドデザインが示されたのは平成12年であった、との答弁であったが、日医総研を活用することで、早急にグランドデザインを示すことは可能である。

4. 「強力かつ効果的ロビー活動が効を奏して」とある。日医会長は就任時にはロビー活動に消極的な発言をしていたが、今回、方針を転換したことが会員に十分伝わっていない。今後とも会員に活動支援を要請する上から、医師免許更新制に関するロビー活動の具体的な行動を明示すべきである。
5. 議事運営委員会では発言時間の取り決めはあったが、代議員には議長団の議事運営の下では発言の自由は保障されており、「議事運営委員会の取り決めを無視した発言」という記事内容は、代議員の発言を抑圧するものであり、容認できない。

別記3

平成17年6月15日

北海道医師会長

飯塚弘志殿

日本医師会

植松治雄

貴職のご質問にお答え申し上げます。

なお、お答えは個別のご質問毎というよりは、総括的にさせていただきます。

グランド・デザインについての考え方、今後の対応については、代議員会その他ですでに述べている通りであります。

ロビー活動の重要性は十分認識しておりますが、会長の所信表明において、それを声高に述べることは適切ではないと考えます。それよりも、国民と共に考え行動する国民運動を前面に出し、ロビー活動はそれを補完するものとの位置づけと説明するのが妥当と思えます。その意味からは、当初から方針を変更したものではありません。

なお、ロビー活動の内容を具体的に示すことは、相手側との関係もありますが、今後の運動の事も考えると適切ではないと考えます。執行部としては、代議員、会員の発言に制約を加える気持ちは全くありません。

なお、日医ニュースに関する件は、その実状につき担当からの報告を別紙として同封させていただきます。

○別紙

日医ニュース コラムについて

日医ニュースには、現在、2つのコラム欄があります。

ひとつは、日刊新聞の社説に当たる「視点」であり、個々の課題につき会員に知ってもらうために、執行部自ら執筆する欄です。

もうひとつは、広報編集委員が各々に個人的想いを載せる「プリズム」です。こちらは、委員個人が好きなテーマで自由なことを書く欄であり、あくまでも、日本医師会の考えや執行部の意見である「視点」とは区別して、署名入りとしています。ただ、日医ニュースの記事として適切であるか否かは、広報編集委員会で毎回審議して決めています。

なお、今回ご指摘の「プリズム」は、いわば代議員会傍聴記のようなもので、過去においてもたびたび掲載されております。

広報担当